

研究実践報告

評論文読解用「学習の手引き」についての共同研究 (1)

井上 泰*・岡 利道**

The Collaborative Research of Guides to Read and Understand Criticisms (1)

Yasushi INOUE* and Toshimichi OKA**

1. 問題意識

教科を問わず、また校種も問わず、いわゆる「学習の手引き」¹⁾の効用については疑う余地はなかろう。先行研究としては、大西(1987)の実践研究がまず挙げられる。授業改善のために「学習の手引き」²⁾が有効に機能することを明らかにしている。しかしながら、中学校説明文教材の事例検討はあるものの、高等学校評論文教材までの言及はない。達富(2019)に注目すると、国語教科書におけるいわゆる「学習のてびき」についての考察が詳細に展開されている。以前から教師の指導の自由度を狭めるのではないかという懸念があり、いまだにそれは払拭されていないという指摘は傾聴に値するものの、私たちが目を向けている教師が作成する「学習の手引き」についてのものではない。他方、若木(2016)は、大村はま単元学習に目を向け、「学習の手引き」が個性化・個別化に寄与する側面を捉えている。複数教材を駆使する単元学習における「学習の手引き」は、本研究で注視する読解³⁾学習向けのものとは趣を異にする。さらに船橋市立前原中学校(2015)のような、生徒向けの国語科授業に臨む上での諸注意や、予

習復習・テスト勉強の仕方などのマニュアル類もあるが、私たちが対象とするものとは質的に違っている。ここにおいて、本研究のテーマの独自性を打ち出すことができる。

2. 研究の目的

偏に、評論文読解用「学習の手引き」について、モデルとなる形を追究するということが、本研究の目的である。

紙幅の関係から、ここでは、扱う評論の主たる教材文として、A社・現代文B教科書所収「未来世代への責任」(岩井克人)の場合とする。

評論文読解の授業改善を図りたいとの意欲態度は、国語科教師の誰しもが持っているであろう。学習指導充実に向かい日夜工夫に努めていることの一つに、この「学習の手引き」についてのそれがある。

共同研究としたのは、教育現場の最前線で実践研究に努める国語科高校教員である井上と、教員養成の任を帯びる国語科教育法担当の大学教員である岡がタッグを組み、より生徒(学習者)のためになるよう、より学生(教育実習に臨む者)のためになるよう、心を一つにしたことによる。このコラボレーションによるオリジナリティを大切に、この研究分野の発展に資するよう微力を傾けたいとの希望も申し添える。

* 本学附属高等学校教諭

** 本学教授

3. 研究の方法

上記の目的を達成すべく、次のように歩を進めていく。

ステップ①井上による授業提案（学習指導案及び「学習の手引き」他により示す。）
 ステップ②岡による考察（学習の手引きに絞り、学習指導要領等の内容に沿って検討する。）

（井上 泰・岡 利道）

4. 研究の概要

ステップ①授業提案

◆学習指導案を以下に示し、授業提案者の意図や願いを伝える。

第2学年国語科学習指導案

指導者：教諭 井上 泰

- ・指導授業科目名：現代文 B
- ・授業日時：令和3年11月17日（水）7時間目
- ・教室名：2年生教室
- ・対象生徒：2年生 37人
- ・生徒観：基本的・標準的な課題や、取り組みについてはしっかりとこなすことができる。欲を言えば、自分の力を超えてもっと高みを目指すという強い気持ちを抱いてほしいところだ。これは、現在の本校生徒には総じていえる。「夢を持たせる」・「志を持たせる」という教育的指導が学習面・生活面のあらゆる場面で必要だと考える。学習を深めること、知的好奇心を高めること、人生についてより深く思索すること、そしてそれらについて行動を起こすことについて、まずはその必要性を理解させ、学習のリーダーや、お互いに高め合っていこうという

音頭を取れる生徒を育成したい。「国語」の教材を使って、アプローチを試みる。

- ・指導観：評論文の読解が苦手な生徒が多い。文章全体の構成や、論理の筋道を各ポイントで考えさせ、明確に理解させたい。また筆者の主張に対する自分の意見をはっきりと持つことの大切さを理解させたい。筆者の主張をそのまま鵜呑みにするのではなく、一つ一つの意見に対して疑問を持ち、それをしっかり考えて判断・解決していく力を身につけさせたい。生徒自らの生きる世界に対して興味を持ち、問題意識を持ち、それにどう自分が関わっていくのか、さらには、自分が世界を変え得るのだという意識を持たせたい。
- ・教材観：環境問題という表現は言い古されて久しいが、未だ何の解決策も見出されていない。折しもスコットランドのグラスゴーでCOP26（国連気候変動枠組み条約第26回締約国会議）が開催されており、環境問題に対する各国のどのような取り組みの枠組みが決められるか注目される場所である。このように、生徒にとって、自分の生きる世界でリアルタイムに起こっている事実や問題に結びつけて考えられる教材であり、さらに自分の将来にも大きく関わる問題を扱っていることを意識させることのできる教材である。正に自分のこととして真剣に考え、判断する力をつけることができる。また、評論文として論理の筋道が明快に示されており、論理の展開を正確に追いながら読解する力を養うにも適切な教材である。
- ・学習活動の展開：全3時間
 第1時：導入。「環境問題」について知っていること、自分が取り組んでいることを出し

合う。プリント教材を使って、教科書①段落・②段落の読解。

第2時：本時。プリント教材を使って、教科書③段落・④段落の読解。

グレタ・トゥンベリさんの2019年の演説を読み、自分の「環境問題」に対する考え方ははっきりさせ、なぜそう思うのか記述する。

第3時：前時に記述した「環境問題」に対する自分の意見・立場と、その理由を発表する。その後、「『環境問題』に対して自分のできること」というタイトルで感想文を書く。

・本時の指導と評価の計画

(1) 本時の目標

筆者の主張および論理の筋道を理解する。

また、関連する資料（グレタ・トゥンベリさんの2019年の演説）を読み、「環境問題」に関して立場によって大きく異なる考え方があることを理解する。自分の立場を明確にし、その理由を論理的に記述する。作品内容から、自らの世界に思考を広げる（「環境問題」について）。——表現・思考・判断についての力をつける。言葉（語彙）の学習。——言語活動。知識を獲得する。

(2) 使用教材 教科書、ノート、配付プリント

(3) 本時の展開 全3時間の2時間目

段階 (時間)	学習活動	教授活動	学習内容	指導上の留意点	評価の観点 評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	前時までの内容 (目標・第①、② 段落)の振り返り	生徒の発言を促す。	○第①段落、第②段落の論 理の筋道を確認する。	凡事徹底の指導	態度・興味・関心の 観察
展開 (35分)	プリント教材を 使って、論理の筋 道を正確に捉え る。 発問に答える。 プリントの空欄を 埋める。 筆者の主張を明確 に理解する。 グレタ・トゥンベ リさんの演説を読 み、思考を広げ る。 「環境問題」の立 場による意見の違 いを理解する。 自分の立場を明確 にして、「環境問 題」に対する意見 とその理由を記述 する。	<p style="text-align: center;">発問・指示等</p> <ol style="list-style-type: none"> 教科書の内容から、プリントの空欄にあてはまる言葉・文章を書きなさい。 筆者の主張をまとめなさい。 グレタ・トゥンベリさんは「環境問題」に対してどのような立場に立っているか。 「環境問題」に対する立場の違いはどのようなものか。 自分の立場を明確にして、意見とその理由を書きなさい。 	<p>○第③段落および第④段落の内容について、筆者の論理を筋道を追って理解する。</p> <p>○筆者の主張をまとめる。</p> <p>○グレタ・トゥンベリさんが「環境問題」に対してどのような立場に立っているか理解する。</p> <p>○「環境問題」の立場による意見の違いの内容を理解する。</p> <p>○自分の立場を明確にして、「環境問題」に対する意見とその理由を記述する。</p> <p style="text-align: center;">言語活動</p> <p>○「勘案」 ○「羽目」 ○「枯渇」</p>	<p>論理の筋道を明確に理解させる。 主張を理解させる。 実際に「環境問題」に関連して活動する人物の意見を理解させる。 「環境問題」に対する立場の違いを理解させる。 自分の意見・立場を他者に理解できるようにまとめる。 辞書的な意味でなく、本文の内容から考えさせる。</p>	<p>思考力・表現力・判断力（応答、ノート観察） 態度（観察）</p>
終結 (5分)	次時の予告 意見発表 感想文記述	6. 自分の意見・立場が他者に納得されるようにまとめること。	○「環境問題」に対する自分の意見・態度と、その理由を発表する。「『環境問題』に対して自分のできること」というタイトルで感想文を書く。	発表の準備。	

◆同様に、「学習の手引き」を以下に示す。上段が記入前、下段が記入後である。

「未来世代への責任」

いわいからじと
岩井克人

□評論文

□授業の目的

- ・ 筆者の意見に対する
- ・ 理解する。
- ・ 自分のできる世界に照らし合わせ、自分が
- ・ 持つ。
- ・ 考える。

〈第①段落〉小見出し

「 p.46 1行目〜9行目

・ 経済学者である私は、現代における「

」の「一頁。

何故？

↓ 経済学という学問は、

から。

経済学の父

の言葉

「通常、個人は自分の安全と利得だけを意図している。だが、彼は導かれて、自分の意図しなかった（公共の）目的を促進することになる」

= 言い換えると …

= どのように・例えば …

★ 経済の発展と「倫理」とは

する

「未来世代への責任」

いわいからじと
岩井克人

□評論文

□授業の目的

- ・ 論理の筋道
- ・ 理解する。
- ・ 筆者の意見に対する
- ・ 自分の意見
- ・ 持つ。
- ・ 自分のできる世界に照らし合わせ、自分が
- ・ どう生きるか
- ・ 考える。

〈第①段落〉小見出し

「 経済学の本質」 p.46 1行目〜9行目

・ 経済学者である私は、現代における「 悪魔」の一頁。

何故？

↓ 経済学という学問は、

他者に対して責任ある行動をとるといふ、人間にとって真の「倫理」を否定するところから出発したから。

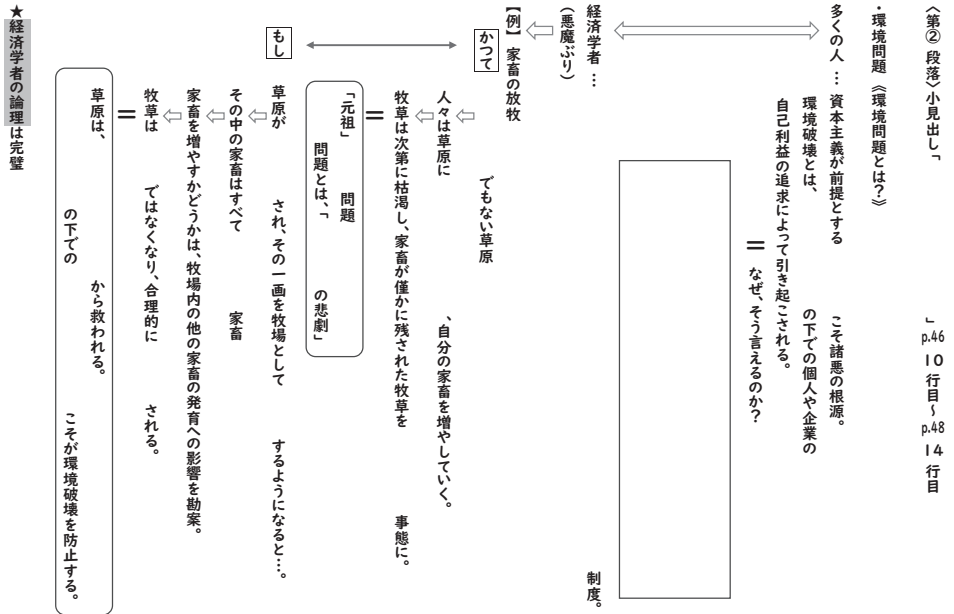
経済学の父 アダム・スミスの言葉

「通常、個人は自分の安全と利得だけを意図している。だが、彼は導かれて、自分の意図しなかった（公共の）目的を促進することになる」

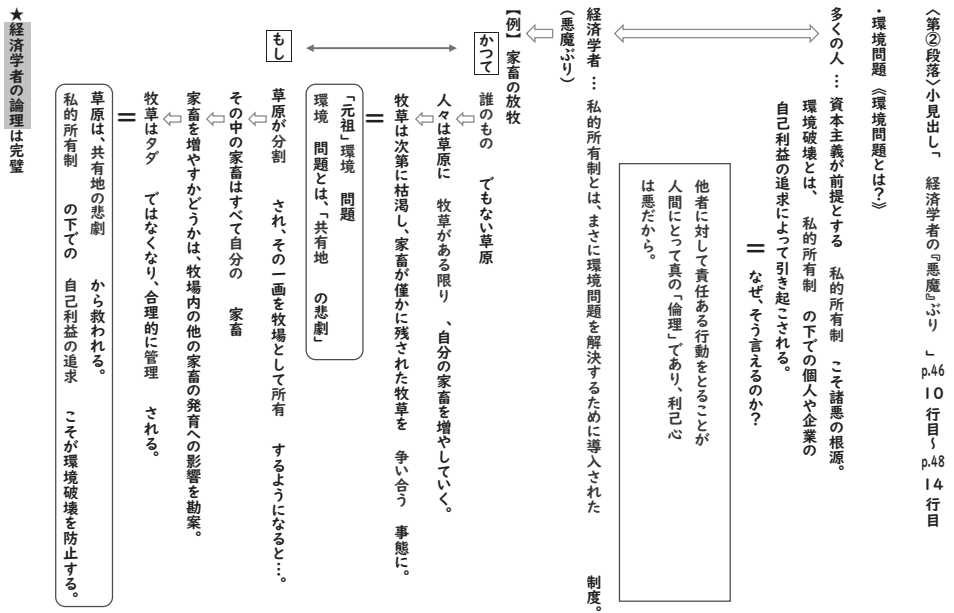
= 言い換えると …

= どのように・例えば …

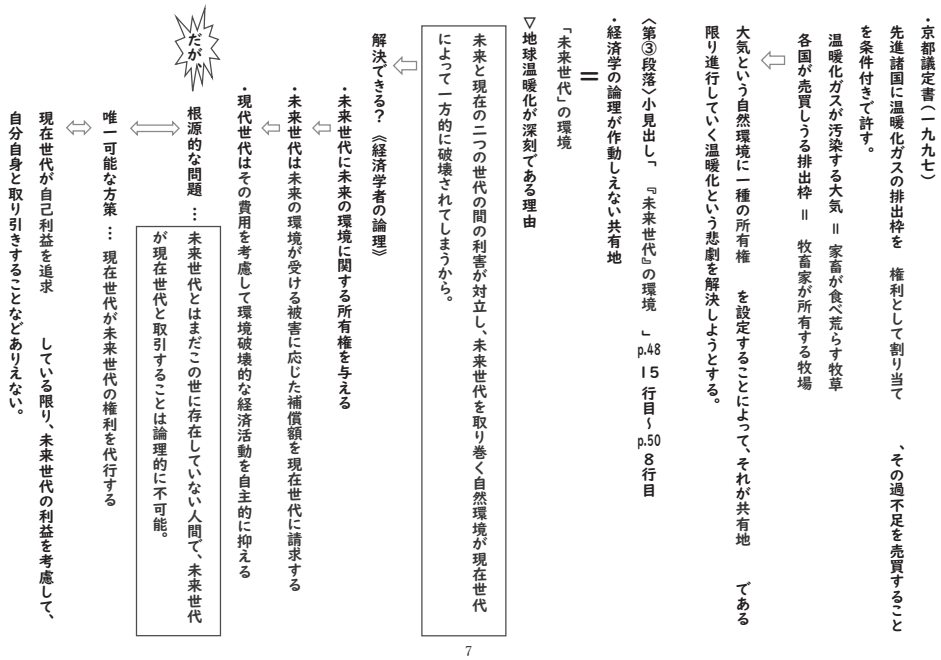
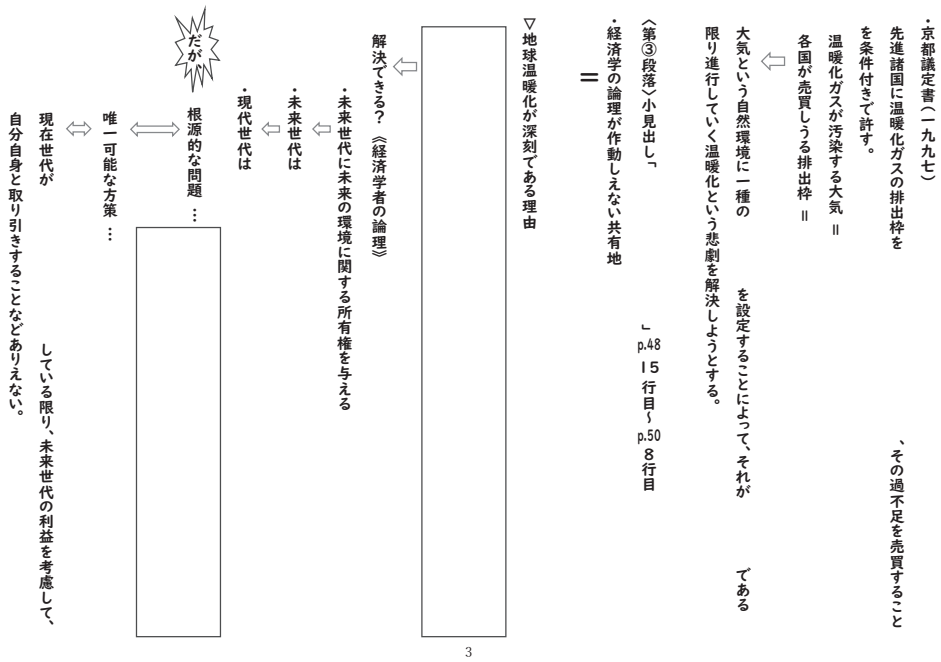
★ 経済の発展と「倫理」とは 矛盾 する



2



6



★環境問題は、
ては解決不可能
← 未来世代とは、自分の権利を自分で行使できない本質的に 他者。

← 未来世代の権利を
しなければならぬ現代世代は、
無力な他者の利益の実現に責任を持って行動することが要請されている。 を抑え、
現代世代は未来世代のために、「倫理的な存在になることが要請されている。」

← 〔第④段落〕小見出し 〔p.50 9行目 ↓ p.50 15行目〕
← 経済学者としての論理の 『悪魔』の一員として失格
← 京都議定書の批准をめぐる混乱が、「こそ地球上で最も枯渇した資源であること
を思い出させてくれた。」

何故、そう言えるのか？

■筆者の主張をまとめなさい。

4

★環境問題は、私有財産制
ては解決不可能
← 未来世代とは、自分の権利を自分で行使できない本質的に無力 他者。

← 未来世代の権利を代行
しなければならぬ現代世代は、自己利益の追求 を抑え、
無力な他者の利益の実現に責任を持って行動することが要請されている。
現代世代は未来世代のために「倫理的な存在になることが要請されている。」

← 〔第⑤段落〕小見出し 失格した『悪魔』 〔p.50 9行目 ↓ p.50 15行目〕
← 経済学者としての論理の破綻(はた) 『悪魔』の一員として失格
← 京都議定書の批准をめぐる混乱が、「倫理的」こそ地球上で最も枯渇した資源であること
を思い出させてくれた。」

何故、そう言えるのか？

← 京都議定書の批准をめぐる話し合いの中で、自己利益の追求を抑え、無力な
未来世代の利益の実現に対して責任ある行動を取るための意見が出されな
かったり、通らなかつたりしたから。

■筆者の主張をまとめなさい。

未来世代の権利を代行しなければならぬ現代世代は、自己利益の追求を抑え、
無力な未来世代の利益の実現に責任を持って行動するという「倫理的な存在に
なることが要請されている。」

8

◆配付資料「グレタ・トゥンベリさん演説」の内容は、以下のとおりである。

グレタ・トゥンベリさん演説全文「すべての未来世代の目はあなたたちに注がれている」
2019年9月25日12時24分

二十三日の「気候行動サミット」でのグレタ・トゥンベリさんの演説全文は次の通り。

私たちはあなたたちを注意深く見ている。それが、私のメッセージだ。

こんなことは、完全に間違いだ。私はここに立っているべきではない。私は海の反対側で学校に戻っているべきだ。それなのにあなたたちは、私たち若者のところに希望を求めてやってくる。(そんなことが)よくもできるものだ。あなたたちは空っぽの言葉で、私の夢と子ども時代を奪い去った。でも私は運が良い方だ。人々は苦しみ、死にかけ、生態系全体が崩壊しかけている。私たちは絶滅に差し掛かっているのに、あなたたちが話すのは金のことと、永遠の経済成長というおとぎ話だけ。何ということだ。

過去三十年以上、科学は極めて明瞭であり続けた。必要な政策も解決策もまだ見当たらないのに、目を背け、ここに来て「十分やっている」なんてよくも言えるものだ。あなたたちは私たちの声を聞き、緊急性を理解したと言う。でもどれだけ悲しみと怒りを感じようと、私はそれを信じたくない。なぜなら、もし本当に状況を理解し、それでも座視し続けているとしたなら、あなたたちは悪だからだ。そんなことを信じられない。

十年間で(温室効果ガスの)排出量を半減するというよくある考え方では、(気温上昇を)一・五度に抑えられる可能性が50%しかなく、人類が制御できない不可逆的な連鎖反

応を引き起こす恐れがある。

あなたたちは50%で満足かもしれない。でもこの数字は(後戻りできない変化が起こる)転換点のほか、(永久凍土が溶けることなどで温暖化が進む)ほとんどのフィードバック・ループ、有害な大気汚染による温暖化、公平性や気候の正義といった側面を考慮していない。この数字はあなたたちが空気中に出した何千億トンもの二酸化炭素(CO₂)を、私たちの世代が、(現時点で)ほとんど存在していない技術で吸収することを当てにしている。だから、50%の危険性は私たちには全く受け入れられない。私たちはその結果と共に生きていかなければならない。

地球の気温上昇を一・五度に抑える確率を67%にするには、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の最善の見立てでは、二〇一八年一月一日時点で世界に残されたCO₂排出許容量は四千二百億トンだった。現在では三千五百億トンを下回った。よくも従来通りの取り組みと技術的な解決策で何とかなるなんて装うことができたものだ。現状の排出レベルでは、残されたCO₂排出許容量に八年半もたたずに達してしまう。

現在、これらの数字に沿って作られた解決策や計画は全くない。なぜなら、これらの数字は都合が悪すぎるからだ。そしてあなたたちはまだ、このようなことを口にできるほど成熟していない。

あなたたちには失望した。しかし若者たちはあなたたちの裏切り行為に気がき始めている。全ての未来世代の目はあなたたちに注がれている。私たちを失望させる選択をすれば、決して許さない。あなたたちを逃がさない。まさに今、ここに私たちは一線を引く。世界は目を覚ましつつある。変化が訪れようとし

ている。あなたたちが好むと好まざるとにかかわらず。

ありがとう。（ニューヨーク・共同）

（井上 泰）

ステップ②考察

◆はじめに

「学習の手引き」は、大西（1987）によれば、「主体的に学習活動を営ませ、確かな国語力と学習力とを身につけさせる」ことを目指し、内容としては「発問・助言・説明・指示などを、学習のしかたをも含めて」盛り込まれるものである。井上実践における「学習の手引き」も主旨を同じくする。教材文をその細部から全体へ（要点から要旨へ）と読み解くといった、いわゆる伝統的な読解の学習に資する「学習の手引き」である。単元全体を見渡すと、「PISA型読解力」が意識されているとも見ることができる。そして、何よりも新学習指導要領「論理国語」における「読むこと」のめざす方向を押さえたものであろう。

以下、「現行及び新学習指導要領との対応」、「比べ読み」先行研究との差異」の順で検討を進める。前者により、今後も大切にしていってべき指導のあり方を確認する。また、後者により、井上実践の提案を受け、さらなる改善の方向を提言していきたい。一方は井上実践の成果をまとめることであり、他方は同様にその課題を見出すことであると言える。

◆現行及び新学習指導要領との対応

まず、現行学習指導要領との対応を確かめてみよう。「現代文B」の「3内容-(2)言語活動」で、「イ論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書くこと。」があり、この単元全体はそれに該当する。

同様に「(1)指導事項」では、「ア文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価すること。」という内容があり、「学習の手引き」に従って、同内容の「～を的確にとらえ、」までの学習がなされるのである。この時、同解説に示される「文章の展開の大体が形になって現れている文章の構成を読み取り、それを踏まえて文章の展開をとらえる必要がある。そこでまず、個々の段落に注意して、それぞれの段落のはたらきを確かめ、段落相互の関係を読み取るようにする。」という手続きが、「学習の手引き」によって進められることになる。また、その「□授業の目的」の一番目に、「・論理の筋道を理解する。」と生徒に書き込ませ、意識化を図ろうとしている。

次に、新学習指導要領になると、従来の「国語総合」に代わるものの一つである「論理国語」で、「C読むこと」の「ア文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが重要を把握すること。」が見える。井上実践では、それらのことを先取り・カバーすべく、「読むこと」の学習指導が展開される。「現代文B」における教材文「未来世代への責任」においては、古くから人間社会で大切だと見なされてきた「倫理」というものを、経済学者たち（筆者もその一員）が、社会における問題、取り分け環境問題において否定した。それは妥当であったのか、という論点がある。それを明確にしなが重要を把握するように、「学習の手引き」は導いている。そこでは、例えば、「★経済の発展と「倫理」とは矛盾する」（「学習の手引き」1ページ目）→「★経済学者の論理は完璧」（同2ページ目）→「★環境問題は、私有財産制では解決不可能」（同4ページ目）のように、「★」印を追わせていくという具体的な姿が見て取れる。

なお、この単元の後半部分では、生徒自身の考えの記述、「環境問題に対して自分のできること」の記述が控えている。そこから、「ウ 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈すること。」以下、複数の内容に対応しつつ、「書くこと」の活動が展開されていくことがわかる。

さらに、新学習指導要領において「多面的・多角的な視点から評価する」読みへの言及に着目してみる。それは、新学習指導要領「論理国語」の「C 読むこと」における、

エ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価すること。

である。具体的には、以下の解説である。(なお、この前後において、とりわけ重視する内容には下線を施している。)

主に「現代の国語」の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C 読むこと」の(1)のイと、「言語文化」の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C 読むこと」の(1)のウを受けて、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価することを示している。

文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係を捉える際には、文章から明らかに捉えることのできる意図だけでなく、文脈から想定される意図も考えることが必要である。この文章で書き手は何を伝えようとしているのかということを読み取るのではなく把握するためには、文章に表れている書き手の思考の進め方に着目し、書き手の考えや強調点を読み取ることが大切である。例えば、

学術論文などの論理的な文章で示される書き手の意図と、ある事例の報告書などの実用的な文章で示される書き手の意図とでは、文章から捉えることのできる書き手の意図の明晰さについては、異なることに留意する必要がある。なお、書き手の意図には、文章の内容に表れている書き手の考えのみならず、なぜこの文章を書いたのか、なぜこのように書いたのかということも含まれる。

その上で、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価するとは、文章の種類を踏まえて、書き手の意図に対して、例えば、相手や目的を考えた適切な構成や展開になっているか、資料の示し方が分かりやすいかなど、文章の表現を検討して書き手がどのように伝えようとしているか、その意図を推測し評価することをいう。

こうした「多面的・多角的な視点から評価する」読みへ迫る構想が、先の学習指導案中の「指導観」「教材観」に認められる。即ち、「筆者の主張に対する自分の意見をはっきりと持つ」「筆者の主張をそのまま鵜呑みにするのではなく、一つ一つの意見に対して疑問を持ち、それをしっかり考えて判断・解決し」「生徒自らの生きる世界に対して興味を持ち、問題意識を持ち、それにどう自分が関わっていくのか、さらには、自分が世界を変え得るのだという意識」「正に自分のこととして真剣に考え、判断する力をつける」に現れている。

◆「比べ読み」先行研究との差異

田中・小野(2011)と篠崎(2019)⁴⁾は、「比べ読み」の意義を押さえ、それが評論文の学習に有効に機能することを提言している。基本的に、井上実践はそれらと同じ立場を取っている。

前者は、具体的な実践報告もなされている。それぞれのポイントを比較すると、次のように整理することができる。

「目標」に関しては、両者はほぼ共通していると思われる。「教材文」は二種で、それらを比較することは共通している。プリント教材については、井上実践の場合は、リアルタイムで入手したインターネット・サイト記事であること、生徒と同年代の若者が書き手であること等の特色がある。「学習過程」を見ると、正確な読解と「比べ読み」の部分は共通する。田中・小野実践は本文理解が中心で、井上実践は、理解・表現がほぼ同じウエイトを占めている。「学習の手引

き」については、詳しい比較まではできないものの、読解と文章の構成を捉える（構造図化）という面でおおよそ軌を一にしていると考える。

◆おわりに

田中・小野実践における「学習の手引き」との比較は、如上のように叶わなかったが、井上実践で使用された詳しく丁寧な内容・構成にしていくことの重要性は、異議をはさむ余地はないだろう。今後の課題という面での私的な見解も添えることにしたい。それは同時に、共同研究の伴走者として自身も考究し続けることである。当該の単元に3時間の時間配分をするとい

	田中・小野実践	井上実践
目標	<ul style="list-style-type: none"> 本文の内容を叙述に即して的確に読み取る。 本文だけでなく、同様のテーマで書かれた他の筆者の文章も比較して読み、ものの見方、考え方を広げ、深める。 ※単元全体のものである。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の主張および論理の筋道を理解する。 関連する資料（グレッタ・トゥンベリさんの2019年の演説）を読み、「環境問題」に関して立場によって大きく異なる考え方があることを理解する。 自分の立場を明確にし、その理由を論理的に記述する。 作品内容から、自らの世界に思考を広げる（「環境問題」について）。——表現・思考・判断についての力をつける。 言葉（語彙）の学習——言語活動。知識を獲得する。 ※本時のものである。
教材文	<ul style="list-style-type: none"> 教科書教材「水の東西」（山崎正和） プリント教材「日本人の自然観」（寺田寅彦） 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書教材「未来世代への責任」（岩井克人） プリント教材「すべての未来世代の目はあなたたちに注がれている」（グレッタ・トゥンベリ）
学習過程	<ul style="list-style-type: none"> 「水の東西」本文の読解、文章の構造図化 「日本人の自然観」本文の読解、文章の構造図化 「比べ読み」をさせる 語句の理解、文章の解釈 考えの形成、交流 ※連続授業のため、正確な時間配分は不明。 	<ul style="list-style-type: none"> 「環境問題」について知っていること、自分に取り組んでいることを出し合う。「未来世代への責任」前半の読解。 「未来世代への責任」後半の読解。「すべての未来世代の目はあなたたちに注がれている」を読み、自分の「環境問題」に対する考え方をはっきりさせ、なぜそう思うのか記述する。 「環境問題」に対する自分の意見・立場と、その理由（既出）を発表する。その後、「『環境問題』に対して自分のできること」というタイトルで感想文を書く。 ※上記のそれぞれに、1時間ずつ配当。
学習の手引き	（具体物は示されていないが、本文の読解と構造図化や、二教材の内容を比較するための学習の手引きが用いられたものと思われる。）	（既に掲載したとおり。）

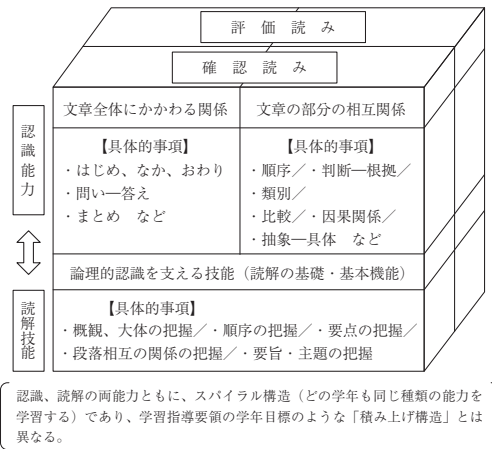
うことは動かせない条件として、まず、「読解が苦手な生徒が多い」（学習指導案「指導観」）ことへの改善方策を講ずることが挙げられる。苦手ながらも、生徒が自力で「読解」できる部分を押さえることから始まるであろう。そこを掴んでから、「学習の手引き」の内容を精選し、改訂することである。学習者研究の推進は容易ではなかろうが、避けられないことであると考えて。次に、いわゆる第二教材としての「すべての未来世代の目はあなたたちに注がれている」も同様に「学習の手引き」を作成し、単元最終での「『環境問題』に対して自分のできること」という表現活動に生かすことを挙げる。従来のような「作文指導」ではない、生徒がオリジナルな考えを持ち、発信・交流するという事を見据え、手応えが確かに実感できる「学習の手引き」の開発をめざし、次稿で報告したい。

(岡 利道)

注

- 1) 「学習の手引き」については、「教材のあとに、読解のための問いかけや発展的な活動を示したものの。文章の集成であったそれまでの教科書を、主体的な言語活動を重視する戦後の国語教育観に適合させるために導入されたのが、現在の学習の手引きの起点である。なお、単元学習などで用いられる、児童生徒の主体的な学習活動を支援するための資料（学習の手順の説明など）も学習の手引きとよばれる。このような機能を教科書に取り入れようとした工夫も多くみられる。」とした河野（2018）の定義がある。
- 2) 大西は、若干異なる立場を取り、「指導者が学習者一人ひとりに、主体的に学習活動を営ませ、確かな国語力と学習力とを身につけさせるために、授業過程における発問・助言・説明・指示などを、学習のしかたをも含めて、主として書きことばによって提示したものである。」との、より直接的・具体的見解を示している。
- 3) 読解するということには、深遠なる意味があるだろう。ここでは、具体的に読み解くことを成し遂げる力、即ち読解力という形で説明しておく。評論文を広く説明的文章の一種と捉える中で、森田（2008）による下図のように、読解力を認識能力と

の統合として把握する。



- 4) 篠崎（2019）は、「教材分析を踏まえて、何をどの程度読むことができればよいのかを設定する必要がある。例えば、主張や根拠を抜き出す、隠れた前提を検討する、要旨をまとめる、表現上の工夫を評価する、社会的な価値を検討する、などが考えられる。社会生活における読解を意識した比べ読みやクリティカル・リーディングなどの指導法の提案が参考になる。」と述べている。

参考文献

河野智文. 2018. 教科書の歴史. 田近洵一・井上尚美・中村和弘（編）. 国語教育指導用語辞典〔第五版〕. 教育出版. p. 357.

文部科学省. 2010. 高等学校学習指導要領解説（国語編）. 教育出版.

文部科学省. 2019. 高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）国語編. 東洋館出版社.

森田信義. 2008. 説明的文章の読みの能力構造論—「評価読み」を中心に—. 鈴峯女子短期大学人文社会科学研究集報第55集. pp. 1-15.

大西道雄. 1987. 学習の手引きによる国語科授業の改善. 明治図書出版.

篠崎祐介. 2019. 評論文・論説文の指導. 全国大学国語教育学会（編）. 新たな学びを創る中学校・高等学校国語科教育研究. 東洋館出版社.

田中宏幸・小野奈央. 2011. 現代評論文の学習を通して思考力・記述力を高める高等学校国語科授業の研究—山崎正和の評論「水の東西」を用いた「比べ読み」「重ね読み」の実践—. 広島大学大学院教育学研究紀要・第二部・第60号. pp. 59-66.

達富悠介. 2019. 国語科教科書における「学習のてびき」の導入とその課題：文部省著『中等国語』から

検定教科書への移行期を中心に. 横浜国大国語研究
37. pp. 152-141.
若木常佳. 2016. 大村はまの「学習の手引き」につい
ての研究—授業における個性化と個別化の実現—.
風間書房.

参考サイト

船橋市立前原中学校. 国語科—学習の手引き—最終更

新日：平成27（2015）年6月4日（木）
[https://www.city.funabashi.lg.jp/gakkou/0002/
maehara-j/0003/p015236.html](https://www.city.funabashi.lg.jp/gakkou/0002/maehara-j/0003/p015236.html)（2021.12.14取得）
グレタ・トゥンベリさん演説全文「すべての未来世代
の目はあなたたちに注がれている」
<https://www.tokyo-np.co.jp/article/27279.html>
（2021.12.14取得）